



SHOKEI



SHOKEI

512

2017
中学校・高等学校 新体育館とグラウンド完成



中学校・高等学校／クリスマス礼拝

中学校・高等学校 新体育館とグラウンド完成

輝き

大学・民俗舞踊クラブもくもく

教職員エッセイ 梅の花

中高教員／長田 可奈

卒業生コラム はばたき

2011年尚綱学院大学生生活環境学科 卒業
ストップ温暖化センターみやぎ／吉田 美緒さん

今号の言葉 宗教主任からのメッセージ

情報掲示板 学校行事報告

この春はばたいていく
尚綱学院卒業生のみなさんへ
同窓会コーナー拡大版

vol.
512

2017年(平成29年)
2月10日発行

尚綱学院大学 オープンキャンパスの案内 高校1・2年生のためのOPEN CAMPUS ～「楽しく」進路を考える1日～

3月12日(日) 12:30～16:00

【実施企画】

聖なる歌声!

「オープニングコンサート」

尚綱に触れる!

「SHOKEIまるごと紹介」

気になる学科をチェック!

「学科オリジナル企画」

～学科紹介企画も実施します!～

SHOKEIライフがわかる!

「先輩とのキャンパスツアー

&プチ懇談」

迷ったらココ!

「何でも相談コーナー」

学生スタッフ主催!

「帰る前の運だめし! 高校生だらけのビンゴ大会☆」

お申込み・お問合せ 大学入試広報課
Mail ▶ koho@shokei.ac.jp

TEL ▶ 022-381-3311 / FAX ▶ 022-381-3325

Graduation LIVE!!

(三校合同卒業ライブ) ～live in enn vol.10～

例年行っている、合同卒業ライブが今年も行われます。
高校3年生の旅立ちを、他校との熱い演奏でお祝します。
是非お越しください。

日 時 2017年3月23日(木)
(内容、日時、時間は予告なく変更される場合があります。)

チケット ¥200 (Drink ¥300)

場 所 LIVE HOUSE enn2nd
〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目7-11
仙台ストックマンビル4F
(地下鉄広瀬通駅 東1出口より徒歩1分)

尚綱学院高等学校 軽音楽部顧問 平澤 和昭
お問合せ TEL: 022-264-5881



尚綱学院大学チャペル基金について



この基金は、故渡部治雄学長からのご寄付をもとに大学礼拝堂での学生キリスト教活動の活性化を願い、2015年度に創設されたものです。これまで大学礼拝内での学生賛美のための楽器購入などに基金が用いられてきました。

これからも渡部先生の願いを受け継ぎ、さらに大学でのキリスト教活動を活発にしていくために当基金へのご寄付を皆様にお願ひしたいと思います。

ご寄付に対するお問合せは、尚綱学院大学総務課までお願い申し上げます。

問/総務課 ☎022-381-3333 mail:somuka@shokei.ac.jp

仙台バロックアンサンブル演奏会

2017年5月28日(日)16時開演

会 場 尚綱学院中学・高等学校礼拝堂
(八幡校舎)

入場料 3000円(当日券3500円)

《 曲 目 》

H.シュッツ作曲

Musikalische Exequien「音楽による葬送」

指揮/鈴木 優子 オルガン/今井 奈緒子

D.ブクステフーデ作曲

Membra Jesu nostri「キリストの5つの御身体」

指揮/ヴァイオリン/寺神戸 亮

ソリスト/鈴木 美紀子、高橋 絵里、広瀬 奈緒、
鈴木 真衣、他

後 援/尚綱学院中学・高等学校、仙台日独協会
チケット取り扱い/ヤマハ・カワイ・藤崎・
ゴスペルショップ「オアシス」

お問合せ先/☎090-6625-7656 鈴木まで

佐々木 鶴吉様(96歳)
(大学事務部職員 佐々木未央様ご祖父)
12月13日逝去されました

太田 健助様(88歳)
(大学・人間心理学科教員 太田健児様ご尊父)
1月22日逝去されました

室井 君子様(77歳)
(大学事務部職員 堀籠洋一様ご岳母)
1月22日逝去されました

お
く
や
み

尚綱学院
後援会会員に
加入の
お願い

尚綱学院後援会は、「尚綱誌の発行」と「学院への援助」を行っている支援団体です。学院を応援して下さる方ならどなたでもご加入いただけますので、ご協力の程お願い申し上げます。

学院への援助と共に尚綱誌が届きます。(年6冊 5回発送) 5月 7月 9月 12月 2月

※9月のみ通常号・入募集特集号同時発行

年会費 2,000円/年 郵便振込口座NO 02230-3-2116

数年分をまとめてのお申し込みも、お待ちしております。手数料無料の振込用紙がございますのでご利用ください。

※尚綱誌購読中の方で、氏名・住所等変更された場合は、ご連絡ください。
※記事を読んだ感想・懐かしい思い出のお写真、楽しい情報等もお待ちしております。
お手紙・おハガキ・TEL・FAX・E-mailにてご連絡ください。

尚綱学院後援会
事務局

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1
TEL 022-381-3342 FAX 022-381-3467
U R L: http://ap.shokei.jp/dk/
E-mail: koenkai@shokei.ac.jp

編集委員 徒然日記

昨年从今年にかけてマイナスの天気になることもあまりなく、比較的暖かい日が続いています。これが温暖化の影響なののでしょうか。雪が降らないのも心配ですが、でも、入試の時にたくさん降られては大変です。過去に、入試の日に大雪が降り、交通機関がみだれ試験時間を遅らせたことがありました。せめて1月の入試期間までは暖かい日が続いてくれるようお願いいたします。そして、この尚綱誌が発行されるころには、合格者も決まり、何名尚綱を希望してくれるのかを待ちながら、新しい生徒を迎える準備も始まります。(Y・O)

新体育館とグラウンド

(広瀬・八幡)完成

中学校・高等学校 事務長 菊池 雅人

2015年夏から解体を進めた広瀬校地内の旧校舎跡地に、2016年7月末に新体育館が完成した。ちょうど南校舎が建っていたところである。設計にあたっては、渡橋からみて、左手(西側)に新校舎、そして右側(東側)に新体育館が同じような存在感で並び立つようにした。なお広瀬川に面する建物南側壁面には、校舎(礼拝堂)側には十字架を、体育館側には尚綱の青いロゴマークを設置し、全体として地域のランドマークとして相応しいようなものとした。内部は、二階に剣道場、二階にエントランスとメインアリーナ等、そして3階にはサブアリーナという仕様である。

体育館には次のような特徴的な点がいくつかある。

①アリーナには競技中に直接光が目に入らないトップライトを配置したこと。

②広瀬川の風が通りぬけるように南北に大きな窓を設けたこと。

③メインアリーナには、壁に入れ込んだベンチを多数設け利便性を高めたこと。

④床には、国際規格の最新の材料を使ったこと(塩ビ弾性スポーツ床材)。

また広瀬および八幡の両グラウンドでは、次の整備を行った。

①広瀬グラウンド・テニスコート二面、ソフトボール場、弓道場、グラウンド照明灯(ニス、ソフト)

②八幡グラウンド・サッカーコート(80m×43.5m)、200mトラック(4レーン)、幅跳びレーン、正門及び道路沿いの外灯、駐輪場用の西門

以上をもって、実質的に2011年度から始まった中高の校舎建設計画の一切が終了する。計画の開始から、旧校舎の解体、新築を繰り返して早くも6年がたったが、この間、周辺地域の皆さんには長い間断続的にご迷惑をおかけした。生徒にも不便な思いをさせたが、それもようやく終了した。八幡グラウンドの本格的な利用はこれからだが、広瀬グラウンドではすでに活発な利用がなされている。春頃からは両校地全体の生徒の動きがよく見える開放的な学校を実感することができるようになる。

新体育館外観



サブアリーナ



メインアリーナ



弓道場



剣道場



広瀬グラウンド



旧体育館について

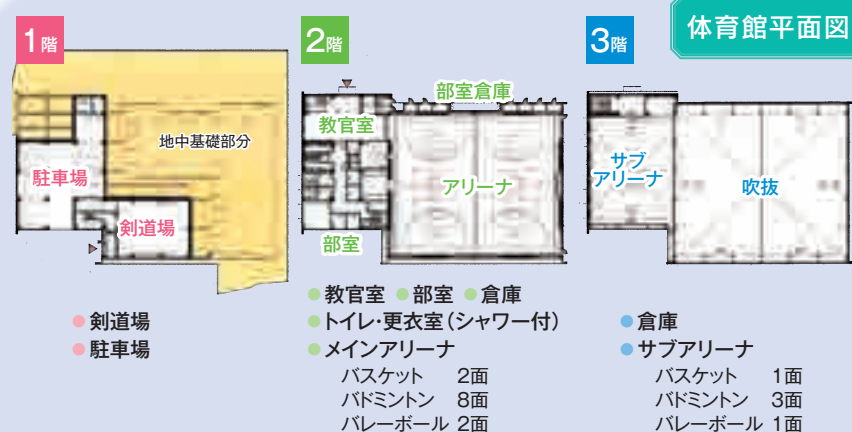
中学校・高等学校 事務長 菊池 雅人

旧体育館は創立80周年記念事業として建設され、竣工は1974年春のことだった。総面積3195㎡は、当時東北地方最大の規模で、地階には一階まで吹きぬけの小体育館(当時の表現)が整備された。さらに1976年には、グラウンド側に面する南側を全天候型助走路として整備した。教職員がタータンと呼んでいたところである。

当時、八幡校地には宣教師館や、短期大学家政科があったためインディアナビルや通称新館、理学館なども建っていて、白衣(実験)の女学生が校地内を闊歩していたものである。また向かい側の中島丁北側には、寄宿舎(本館、新館)もあり、中高生も多く往来していた。

その後は、天井灯の交換、床の張替え、耐震工事、アスベストの飛散防止など様々なメンテナンスを行いながら利用してきたが、すでに築後40年を越え、設備は古くほころびが目立つてきた。

そして校舎建設計画の中で、この場所はグラウンドとすることになり、解体することが決まった。あわただしく引越しを終え、お別れの閉館式を行ったのは2016年8月19日のことだった。なお、同日には広瀬校地に完成したばかりの新体育館の竣工式も行われた。



全体配置図



ストップ温暖化センターみやぎ

吉田 美緒さん

2011年 尚綱学院大学生生活環境学科 卒業

〔卒業生コラム〕

habataki

はばたき

vol.45

大学で学んだ「地球温暖化」問題が人生の転機に。これからも環境問題の啓発活動に全力投球！

1.この仕事を選択した理由と、仕事に就いて感じることをお聞かせ下さい。

以前からメディア報道などで多少の知識は持っていましたが、大学で改めて「地球温暖化」について学んだことで私達が直面している状況に危機感を覚えました。私自身も何かできないかと思い、宮城県地球温暖化防止活動推進員として委嘱を受け、MELONの取組みに関わったり、研究室で子どもたちを対象とした環境授業をしていく中で卒業後も何らかの形で関わられたらという思いが叶い、現在の職に就くことができました。

現在、小学校での環境学習や家庭からCO₂を削減するためのアドバイス(うちエコ診断)の実施など「地球温暖化防止」に対する普及啓発を行っています。大学の授業で得た知識や経験だけでなく、そこからできた人との繋がりが今も続いていることを常に実感しています。

地球温暖化は世界共通の問題であり、強い台風や集中豪雨、猛暑日(最高気温35℃以上)の増加などここ数年、毎年のように報告されその影響が既に出始めています。

私たちができることは実は日常にたくさんあり、一人ひとりが行動を起こさなければこの問題は解決できないと切実に思っています。

2.温暖化問題について、尚綱と関わりある取り組みや参加している学生に声をかけるとしたら？ また今後の活動予定は？

環境活動サークル「FROGS」はMELON主催イベントに出展するなど、一緒に活動してくれています。学生たちには今後も積極的に活動を継続してもらい、その活動を通して様々な人や企業、団体とのネットワークを築いてほしいと思っています。

私は今後も環境学習などで幅広い世代の人たちへ普及啓発を通して、「地球温暖化防止」への関心や行動を起こすためのきっかけとなるよう活動していきます。



環境学習



尚綱学院大学参加MELONフェスタのブース



2004年4月	尚綱学院高等学校	入学
2007年3月	同	卒業
2007年4月	尚綱学院大学生生活環境学科	入学
2011年3月	同	卒業
2011年	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	入社・現在に至る

輝き

Vol.10

大学・民俗舞踊クラブもくもく

私たちは子ども学科の安藤先生指導のもと国内外の民俗舞踊を取り上げ、踊りやお囃子の習得・発表を目指し活動をしています。主に、秋田県の西馬音内盆踊り、鳥取県の因幡の傘踊りを中心に練習を行っています。

毎年6月と7月には、仙台北山の羽黒神社例大祭と色麻町ライスフィールドに出演しています。8月には実際に



集合写真

秋田と鳥取に行き、西馬音内盆踊りや因幡の傘踊りの祭典に参加しています。12月には子ども学科舞踊発表会に様々な演目で出演しています。また実力向上を目的とする強化合宿を年2回3月と7月に行っています。今年度は5月に尚綱学院同窓会総会、9月登米支部総会でも踊りを披露しました。現在、各学年合わせて約30名強の部員が所属しています。また他にはないOG・OBの先輩方も毎週参加し熱心に指導して頂き、部員全員でさらなる向上を目指し取り組んでいます。

民俗舞踊クラブもくもく部長： 2年 岡山 眞子

「AI 社会の到来」

これまでの30余年を振り返り、アナログ人間の私は戸惑うことばかりである。働き始めたころプリントは謄写版印刷で1枚1枚、インクで手を汚しながら作り上げた。原稿も手書きでヤスリ盤の上に原紙を置き鉄筆で書く、カリカリという音が蘇ってくる。ガリ版とも言われたこれを知る世代も限られるであろう。それからワープロとなり、現代のパソコンへと変貌してきた。人工知能(AI)が話題となっている昨今、「取り残されている」という思いは更に強くなる。

21世紀の折り返しになる2050年はどうなる社会となっているのだろうか。日本の労働人口の49%が10～20年

後にはAIやロボットなどに置き換えられる可能性が高いと言われ、進化し続ける社会が予想される。一方で「知」「美」「愛」といった人間でしか行えない創造性や精神性はディープラーニングでも及ばないとも指摘されている。何やらほっとする。

教育に携わる者として、単に知識だけを教えるような「機械」にはなりたくないと思いながら、次世代を担う子どもたちをどのように育てたらいいのかわからない毎日である。どのような人生を歩むのか、その答えを考えだすのは当人たちののだが、その端緒を開くことの重責をずっと感じている。

教職員エッセイ vol.45

梅の花

中高教員

長田 可奈

さりながら、ガリ版のアナログ人間の私でもデジタルの大波を乗り切ってきた。ましてや、デジタル社会に生まれ、ライン等で他者と濃密に接することに慣れている子どもたちは前向きかつ強かな社会人になっていくであろう。新たな時代の幕開けとそこで活躍する人材が育つことについては憂いを全く持たない。

中高では、今年度から、11月末のアドベントから1月の公現節までを後期キリスト教教育月間と位置づけ、クリスマスの意味をじっくり考え、その喜びを分かち合うための新しい取り組みがスタートしました。

今年のクリスマスは、11月25日のアドベント・プレ礼拝、そして夕方に行われるクリスマスツリー点灯式から始まりました。点灯式の企画は、宗教部・合唱部・家政科学部・放送部がお手伝いをしました。それから、朝の礼拝が毎回ク



新しいクリスマス

スマス礼拝は、賛美とメッセージを中心とした音楽礼拝の形式で行いました。メッセージは、ヨハネによる福音書3章16節から、「この世に來られたまことの光」という題で、宗教主任の田所義郎先生にいただきました。合唱部と管弦楽部・室内楽部に賛美をリードしてもらいながら、全校生徒と教職員が声を合わせて賛美をしました。豊かなメッセージを浴びながら賛美と祈りを重ねることのできた豊かな1カ月でした。

(中高教員 齊藤直美)

てその働きのために祈ってきた施設や団体で働いていらっしゃる先生方などから、お話をさせていただきました。また、特別礼拝も毎週行われ、週のテーマに合わせた賛美礼拝や中学生によるクリスマス童話の朗読とキャロリングなどのプログラムが行われました。またこの期間、街頭でのクリスマス募金や東日本大震災被災地で行われたクリスマスでの奉仕活動に、宗教部や書道部が参加しました。



リスマス礼拝となつて、近隣の教会の牧師さん、数年来クリスマス

そのような中で、たくさんの方が募金に協力してくれた。冬場であるため足先までもとても寒かったはずだが、募金活動を通して心の温かさに触れ、寒さなどあまり感じなく、とても感動した。

募金に協力してくれた方々の思いが、世界の苦しんでいる人々に届くことを願っている。

(宗教部長 2年 鳥山佳奈子)

他校のミツシヨンスクールと共に行われた合同クリスマスで、私達宗教部はクリスマス募金の呼びかけをした。道行く人に2つの募金の趣旨を伝え理解してもらうことは難しいことであり、また人それぞれ心の心に様々な葛藤があるため行動に移すのは勇気のいることである。



12月10日(土) ミツシヨンスクール 7校合同クリスマス



私がこの修学旅行で感じたことは、沖縄の人達の温かさです。バスの中ではバスガイドさんが、ガイドブックにも載っていないような沖縄のことを教えてくれました。国際通りではとてもフレンドリーな人が多く時間が足りないくらい楽しかったです。民泊ではフォトフレームを作ったり、パワースポットや景色の良い場所に連れて行ってもらったりと沖縄の隅々まで見ることができました。

あつという間の4泊5日で最高に楽しくて思い出に残る修学旅行となりました。

(修学旅行委員長 2年 津島奈々恵)



高等学校 11月14日(月)～18日(金) 修学旅行 沖縄 (総進コース)

観点を持って旅行したことはありませんでした。しかし、原爆資料館などを訪れるうちに、当時の長崎の様子を見て、戦争をなくすために何をすべきかを考えるようになりまし。また、福岡市内での自主研修では、集団行動の大切さや時間の配分に気をつける必要性を感じました。また、ハウステンボスや九州国立博物館などの九州の名所にも実際に行くことができました。今回の旅行で、これからの学校生活に生かすべき経験を得ることができたと思います。

(2年 高橋朔太郎)



11月15日(火)～18日(金) 修学旅行 九州 (特進コース)

2月の第一日曜日は、バプテスト・デーです。バプテストとは、尚綱学院の創設者である宣教師らを派遣したキリスト教プロテスタントの二教派です。1873年2月、日本に最初のバプテスト派の宣教師であるネイサン・ブラウン、ジョナサン・ゴープル両宣教師夫妻が横浜に到着し、伝道が開始されました。

この最初の宣教師たちの働きは目覚ましく、特にジョン・ゴープルは初めての日本語聖書(マタイ福音書)の発行を行い、ネイサン・ブラウンは福音書全巻の翻訳を成し遂げました。

彼らが翻訳した聖書の日本語は、現在私たちが使っているひらがな表記、句読点などの起源となりました。

野菜や果物、お米など秋のおいしい収穫物が持ち寄られた大学礼拝堂で、11月9日(水)に収穫感謝礼拝が行われ、子どもたちの歌声が響きわたりました。礼拝後に年長児が、いつもお世話になっている大学の職員の方に収穫物を届け、日頃の感謝の気持ちを伝えるよい時間をもつことができました。また収穫物を使って、さつま芋も蒸しパンやカレー、焼き芋などにしてみんなでおいしくいただきました。

礼拝を通して、神様や周りの人たちののはたらきを知り、自然の恵みに感謝の気持ちをもちながら今後

(幼稚園教員 澤口美咲)



幼稚園 11月9日(水) 収穫感謝礼拝

幼稚園

情報 掲示板 各学校からのお知らせ

2016年から2017年へ。すべての人々が羽ばたく良い年になりますように!

園庭が雪で白く覆われた12月14日(水)、15日(木)、16日(金)に幼稚園の遊戯室にてクリスマス礼拝が行われました。年中組、年長組は縦割りで礼拝を守り、この日のために自分たちでセリフを考え、一生懸命練習をしてきた聖誕のページェントをしました。年少組は吊り人形での聖誕劇を見ました。この3日間、遊戯室いっぱい子どもたちの讚美歌が響き渡りました。

また、保護者の方と一緒にキャンドルサービスも行いました。静かに灯るろうそくの火を見つめながら、みんなで心静かに神様の誕生を喜び、お祝いすることができました。

(幼稚園教員 村松玲奈)

私は、性教育講演会に参加して、1つ感じたことがある。それは、「親になる」という難しさである。親は子どもを元気に成長させ、たくさんのことを教えるなければならない。

しかし、親はそれなのにいつしか手離さなければならない。親がいつまでも子供だと思っていても、実はもう大人らしいことを考えられたりできるのである。

だから、私はこれからの生活していく中で、「親になる」準備をしていきたいと思います。どうして、いずれ全て失うのに、大切なものが増えていくのだろうか。

(2年 仁藤福)

※宮城大学看護学部より塩野悦子先生をお招きして行われた今年の性教育講演会のテーマは「中学生のための親になる備え」でした。妊婦体験や、教員が迫真の演技(?)でお届けするお産劇も途中にはさみながら、親になるために必要な健康なからだや情緒の安定、経済力、異性への理解などについて楽しく真剣に学びました。

生徒たちからの反響も大きく様々な感想文が寄せられましたので、1つご紹介させていただきます。

中学校 11月10日(木) 性教育講演会

今回で9回目となる「地域との交流会」が11月3日に行われました。この日は天気に恵まれ、良き交流日となりました。

プログラムは開会礼拝に始まりミニコンサートやランチャタイム、校内をめぐりながらの交流ゲーム

と、あつという間のひと時でした。私が今回の交流会の中で最も印象深かったのは全員合唱です。世代を超え、会場にいるすべての人達が「ふるさと」などを歌っている姿に大きな一体感を感じました。

地域との交流会は地域と尚綱のつながりを深める行事です。今後

(2年 小室恭平)

中学校・高等学校 11月3日(木) 地域との交流会



12月16日(金)、特定非営利活動法人ハーベストや尚絅学院同窓会の協力を得て29名の社会人市民講師の方々をお招きし、キャリアセミナーが開催されました。普段、専門職の方々の話を伺う機会がないため、膝を交えて談話形式で話を伺うことができたことは、生徒たちにとって大変美りの多い時間となったようです。講座に参加している時の生き生きとした表情や、真剣な表情で必死にメモを取る生徒の姿がとても印象的でした。多くの方々の協力をいただき、開催できたことに感謝申し上げます。(中高教員 佐藤 郁恵)



卒業生に、いつから就職活動を意識していたかを聞くと、3年後期との回答が最も多いのですが、もっと早く行動すれば良かったとの反省も同じくらい聞かれます。進路就職課では、その声に応えるため、3、4年生対象の就職ガイダンスや学内企業説明会などに低学年の学生も参加可能としています。

先日、金融セミナーに参加した1年生からは「金融業への理解が深まった。1年生から学べる機会があつて良かった」という声が寄せられました。3、4年生への支援強化は勿論ですが、低学年への支援も強化することで、学年を超えて学び合え、進路を見据えた学生生活を送れます。そのような機会を増やして参ります。(進路就職課長 中村 節子)



12月7日(水)、昨年協定を締結した台湾の弘光科技大学 国際交流部長タイガー・ティエン先生と国際交流担当グレイス・ヤン氏が来校し、ティエン先生による特別講義「台湾の文化と広告産業」が行われました。今年8月に台湾夏期研修に参加した学生を含め約30名が聴講し、自分の考えが自国の文化に影響されていることや、台湾のテレビCM映像を紹介しながら日台を比較し、国や時代によつて「文化」も変化することなどを学びました。多くの学生が異文化に触れる楽しさを知り、国際交流に興味を持つきっかけとなりました。(連携交流課 照井 あゆみ)



2016年度のクリスマス礼拝は、12月20日(火)の午前に人間心理・子ども・健康栄養の各学科、午後は表現文化・現代社会・生活環境・環境構想の各学科を対象として開催されました。プログラムの冒頭には前年度カンボジアスタディツアーに出かけた学生による報告会を行い、改めてカンボジアの現状と子供たちの人権について考える時間となりました。引き続き



き行われた礼拝では田所宗教主任によつて「光が導くところへ」(午前の部)「暗闇を照らす真の光」(午後の部)と題した奨励があり、聖歌隊による特別賛美・献金も行われ、大変厳かに礼拝を持つことが出来ました。続いて、学内外で顕著な活躍をした卒業生・在学生・教職員を学長が表彰する尚絅オブザイヤーの授賞式が行われ、計5名の方々が表彰されました。また午前の部ではアドヴェントポスターコンクルの表彰式も行い、子ども学科の福地さんが最優秀の表彰状を受け取りました。最後に「音楽と表現」履修者と「音楽II」履修者による合唱と佐藤淳一による独唱が演奏され、盛沢山ではありましたが充実した時間を学生と教職員一同で共有することが出来ました。(宗教部長 佐藤 淳一)

この春はばたいていく

尚絅学院卒業生のみなさんへ



学院長
佐々木 公明

尚絅学院を卒業する生徒・学生の皆さん、そして保護者の皆さんおめでとうございます。それぞれの新しい進路に向かい、輝く希望をもって、新しい歩みを始める一人一人をきっと神様も祝福していることでしょう。中学校、高等学校を卒業される皆さんは、校舎だけでなく、体育館、グラウンドもすべて完成したキャンパスで卒業を迎えることができましたね。大学を卒業される皆さんは、ゆりが丘のキャンパスで、「自主的・能動的」に、4年間学習、課外活動、ボランティア活動などに全力を尽くしましたね。卒業する皆さんは尚絅学院の建学の精神であるキリスト教精神を礼拝や「尚絅学」で学び、特に「他者と共に」という生き方を目指してきました。人々がお互いを信頼できる人間社会を創ることを目指してください。尚絅学院で学んだことを誇りとして、皆さんがそれぞれの専門分野と、未だ復興途上にある東北のために、混迷する国際社会の平和のために、大いに活躍してください。それが、皆さんの幸福な人生に繋がるはずですよ。

卒業生より

高等学校 3年

柳瀬 そら

私は合唱部に所属し、部長を務めたことで物事の考え方や人との関わりなど沢山のことを学びました。困難が立ちはだかることもありましたが、あきらめず仲間達と最後までやりとげました。

また、勉強でも気を抜かず頑張り続けたことで第一志望の大学に合格することができました。将来は小学校教諭として働きたいと考えています。

今までの経験を大切に、今後の大学生活でも積極的に学びを深めていきたいと思っています。



大学 子ども学科

阿部 友紀



子ども学科に入学してから早4年、大学生活に胸を躍らせていたあの頃を思い出します。専門的な知識に難しさを感じながらも、新しい出会い、サークル活動、課外授業など、毎日が充実した日々でした。その中でも合唱コンクールは特に思い深く、4年目の集大成として歌い上げた「何度でも」は、これから社会に出て行く私たちに染みる一曲となりました。4月から、私は保育士として社会へ新たな一歩を踏み出します。未だ見ぬ世界に不安はありますが、困難に直面した際には、学びを共にした仲間を思い出して、前を向いて歩いていこうと思っています。

大学院 健康栄養科学専攻

平野 穂菜

2015年4月、私は尚絅学院大学院に入学いたしました。期待と不安を抱え、大学院の健康栄養科学専攻の先生方、先輩方にご挨拶をしたことが鮮明に思い出されます。

大学院生となつてからは、常に緊張感を持ち、取り組みることができました。その中で失敗も多くありましたが、そこから得たこともあり、充実した日々となりました。また、授業の一環として、学部 of 学生さんや先生方の前で発表させていただく機会もあり、非常に勉強になりました。

大学院生として過ごしたこの2年間、様々なことがありましたが、ここで学んだこと、多くの方々にお世話になったことを忘れず、これからの生活に繋げていきたいと思っています。





2016年度尚綱学院同窓会 拡大版

本部役員紹介

会長 菊地 和子



役員一人一人が
むつみのくさりの
如く連なり、
同窓会の役割を
果たして参ります。

副会長 小島 典子



尚綱は学生時
代から私に素敵
な出会いを沢山
贈って下さり感
謝です。

副会長 篠田 芳美



同窓生の方々と
接する機会に
恵まれ、新たな
繋がりに感謝し
ています。

会計 赤坂 光子



菊地会長の元、
尚綱同窓会ま
ます発展のため
役員一同力を合
わせて頑張つて
おります。

会計 内海 奈保子



趣味は写真。
GOODNESSに
生きる皆様を「単
焦点」で撮る仕事
をしています。

書記 昆野 喜根子



尚綱を定年で
やめてから同窓
会の役員として
働ける幸せを感
じています。

役員 熊谷 史子



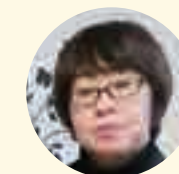
本部役員とし
て右往左往の
日々です。まだ
初心者マークは
外せません。

役員 穴戸 弥生



若い役員の方々
から活力を頂き、
役を務めており
ます。

役員 瀬谷 眞代



私の任期中に同
窓生若手の方を交
えてのイベントを
と考えております。

クリスマス礼拝



高校、短大を尚綱で学び、青春時代を過ごした故郷仙台。結婚後は主人の勤務先の栃木での暮らし。「青葉城恋歌」を聞いた時は懐かしさで一杯でした。五十歳で仙台に移住。今春には、孫が尚綱大学を卒業します。現在私が活動



している某委員会、Mさんと出合つて二年。最近、彼女も尚綱出身と知り、クリスマス礼拝に誘われました。五十数年振りでしたが、一瞬で高校生に戻つてしまいました。同じ学舎を共にした方達に包まれていた安堵感は、とても心地の良いものでした。パイプオルガンの調べと共に礼拝が始まり、牧師様の体談に感銘を受け、ハレルヤコーラスに感動し、有意義な時を過ごしました。誘つて下さったMさんに感謝致します。

クリスマス献金報告

この日出席者よりお捧げ頂きました献金額は888,660円でした。全額、中高建設基金へ寄附させて頂いていただきました。ありがとうございました。

新旧支部長挨拶

関東支部



前支部長 辻 久子

四年の支部長時代は皆様にお支え戴き、無事に終えた事を感謝致します。

本部幹事会の熱心な各支部の活動報告に「むつみのくさり」をふくらませ、八三会墓前礼拝でブゼル先生にはじまる「建学の精神」に思いを馳せた日々でした。



新支部長 立沢 千恵子

関東支部は105年の歴史ある同窓会です。東京・神奈川・千葉・埼玉の名最寄会の活動が支部を支えています。尚綱の精神と伝統こそが今日まで同窓生を繋いでいるのです。

これから新しい時代に向かって若い力に大いに期待して進んで参ります。

どうぞよろしくお願い致します。

大崎支部



前支部長 佐藤 了子

「かたく結べるむつみのくさり」は解くときなし」の建学の精神を学んだ会員の方々、副支部長佐々木淑子さんと佐藤千恵子さん、他素晴らしい役員の方々を支えられ8年間楽しく支部長として過ごすことが出来、私の心の宝物となりました。

感謝の気持ちでいっぱい입니다。



新支部長 佐藤 千恵子

大崎支部長に就任させて頂きました佐藤千恵子と申します。

大崎支部は平成元年に設立し、今年で29年目となります。尚綱の教育目標である「他者と共に生きる」を念頭に会員の皆さまのご協力とご支援を得て楽しい支部活動をしていきたいと思ひます。

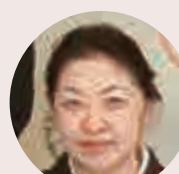
よろしくお願ひします。

東海支部



前支部長 伊藤 八千穂

十数年にわたり、東海支部長としてご奉仕させて頂いた感謝致します。その間、沢山の出会いと別れがありましたが、全て神さまのご計画の中にあり今日まで続けることができた事に、大きな恵みとその思いを次の方に託したいと願つております。



新支部長 越後 ひろ子

「名古屋の最寄会へいらつしやいませんか？」そんなお誘いから何年の月日が流れた事でしょう。親の介護、子供の病気、主人も送る、今ひとりになり改めて自分の生き方を問われている気がします。そんな中、支部長のお話をいただきました。毎年人が集まらず淋しいですが、あの時の「ときめき」懐かしさを継いで一人でも多くの仲間とお喋り出来る事を願つております。

高齢同窓生へ 手作りクリスマスカード



本部役員が心を込めて作成した今回のクリスマスカードは、手作業が苦手という役員に

キラリ☆

巨理支部 千葉 さよ

二つの母国 (昭44年短英卒)

私は中学から短大卒業までの8年間を尚綱で過ごしました。卒業後、宣教師のブリトル先生のご指導により、米国バーモント州セント・マイケルス大学に2年間留学致しました。帰国後、大学で知り合ったベネズエラからの留学生と文通し、1972年に結婚し、夫の国で新生活を始めました。

ベネズエラの母国語はスペイン語で、結婚後は夫の家族と同じ、スペイン語の語学教室に通いながら生活習慣を身につけました。その間、二人の子に恵まれ、38歳で日本航空カラカス支店に就職しました。4年後に独立し旅行会社を設立し、現在



に至っております。ここ近年は、息子に会社を任せ、実家のある巨理とベネズエラを半年ずつ行き来する生活を送っております。

遠く離れたベネズエラで過ごした日々、尚綱で過ごした学生生活は私にとつてかけがえのない宝でした。そして何年が過ぎても同窓会で皆様にお目にかかることで楽しい時間を持つことが出来、感謝しております。今後も会の繁栄をお祈りします。

むつみのくさり

復刊第11号刊行



「むつみのくさり」復刊第11号を2015年12月17日に発行致しました。

- 内容：内容を二部ご紹介致します。
 - 中学校・高等学校新校舎の紹介
 - 尚綱学院はいまこれから
 - 同窓会活動
 - 歴代同窓会会長からのメッセージ
 - リレーエッセイ：校歌・学院歌に想つ
 - 時を超えてブゼル先生の思い出にふれる
 - 広瀬校舎のおもいで
- 内容：お届けしています。
- ご購入を希望される方は、同窓会事務局までご連絡下さい。1部1,000円になります。

同窓会活動協力費について

尚綱誌2月号に専用振込み用紙が同封されます。金額は年額2,000円となります。ご協力の程よろしくお願い致します。

お願い

会員の皆様の住所変更・改姓等があった場合や、クラス会・同期会開催時に名簿を作成した場合、情報は同窓会へお寄せくださいますよう、ご協力お願い申し上げます。個人情報については慎重に管理しております。

問合せ先(同窓会事務局)

- ◆ 月金/9時30分~15時30分
- ◆ 住所/〒980-0871
- ◆ 仙台市青葉区八幡1-9-27
- ◆ TEL/FAX/022-264-5880
- ◆ Eメール/ osokai@shokei.ed.jp

同窓会へのご寄付に、心より感謝申し上げます

大槻 恵子 様 金三〇,〇〇〇円
小笠原 義道 様 金五,〇〇〇円

本部行事

総会	日程：2017年5月20日(土) 場所：江陽グランドホテル
八三会	日時：2017年8月3日(木) 場所：北山輪王寺内 キリスト教墓地
クリスマス礼拝	日時：2017年11月25日(土) 場所：中学校・高等学校礼拝堂

2017年度支部総会

支部名	開催予定日	支部長
関西	6月17日	祖川かつ子
山形	6月24日	佐藤 徳子
名取	7月1日	斎藤 幸子
岩沼	7月8日	鬼澤 洋美
塩釜	7月15日	遠藤 和子
岩手	7月22日	道又百合子
北海道	9月2日	小野 樹子
巨理	9月16日	高橋 泰子
登米	9月30日	菅野 紘子
大崎	10月7日	佐藤千恵子
気仙沼	10月28日	昆野 牧恵
仙南	11月4日	上西 則子
石巻	11月11日	渡辺 静枝
東海	11月18日	越後ひろ子
関東クラス	12月2日	立沢千恵子